

琵琶湖におけるオオクチバス等防除モデル事業について

近畿地方環境事務所野生生物課

高橋 勝志

防除モデル事業

近畿地方環境事務所では、平成17年度に琵琶湖内湖である湖北野田沼等で予備調査を実施し、防除モデル事業として、18年度から、防除及び調査を琵琶湖内湖である湖北野田沼や琵琶湖本湖において実施している。

野田沼における調査及び駆除としては、・人工産卵床・自然産卵床・産卵親魚捕獲・仔稚魚駆除・仔稚魚調査・魚類相調査・その他（空中写真・植生・水温・水位）を行った。また、その他にも、乙女が池における魚類相調査、オオクチバス等の分布概略及び繁殖状況の確認のために滋賀県内の漁協に対する聞き取り調査、冬季蝸集調査を行った。

18年度の各調査及び駆除を実施した結果、魚類相調査によれば、外来魚（ブルーギル）の個体数が段々下がりはじめ、在来種のものも確認され始めた。しかし、オオクチバスについては、捕獲された個体数が少なかった、産卵床も少なかったこともあり、直接の効果が見えない状況となった。またブルーギルについては、当歳魚の駆除を行い、個体数の減少傾向が見られるものの、繁殖成功の時期による違いの要因が明らかでない結果となった。そのため、琵琶湖と野田沼におけるオオクチバス等の移動状況が明らかでないことが要因として考えられた。

19年度は、事業として2年目であるが、昨年度からの検討課題等の結果を踏まえ、18年度の継続事業として、・人工産卵床による駆除・自然産卵床の探索駆除・小型三枚網による成魚及び親魚駆除・仔稚魚駆除・仔稚魚調査・魚類相調査・水温ロガー測定を行い、新規に・一枚網による成魚及び親魚駆除・琵琶湖と野田沼の魚類移動調査を行うこととした。

今回はこれらの調査の結果及び中間報告を行う。